

Green Brave

10th Anniversary

#52 埼玉トヨペット GB GR Supra GT

AUTOBACS SUPER GT 2022 SERIES

Round 4

FUJIMAKI GROUP FUJI GT 100LAP RACE

2022年8月6日(土)～7日(日) 富士スピードウェイ(静岡県小山町)

■ ■ ■ ■ ■ トラブルを抱えた中での走行となり、悔しい 14 位 ■ ■ ■ ■ ■

SUPER GT の第4戦が富士スピードウェイで行われました。レース距離は 100LAP (約 450km)。GT300 クラスのエントリー台数は 26 台です。

予選日(土曜日)の天候は曇。夜中に降った雨のため、95 分間の公式練習は濡れた路面でスタート。吉田選手は路面が乾くのを待ってから、コースに入ります。ピットインを挟み、硬さの異なるタイヤを試しながら走行。川合選手がラスト 15 分間の走行を担当し、公式練習は終了しました。ベストタイムは吉田選手が 14 周目にマークした 1 分 37 秒 303 で、順位は 3 位。川合選手も 1 分 37 秒台のペースで周回しており、GR スープラ GT の仕上がりは順調のようです。公式予選(Q1)は 15 時から 2 組に分かれて行われ、吉田選手が A 組に出場。予選開始と同時にコースへ入り、タイヤを温めながらアタックを行います。吉田選手は 5 周目に 1 分 36 秒 855 をマーク。4 位につけ、2 戦ぶりの Q1 突破を果たしました。約 1 時間後に行われた Q2。川合選手は 4 周目からアタックを行いますが、走路外に飛び出してしまい、アタックをやり直します。翌周に吉田選手のタイムを更新する 1 分 36 秒 814 をマークしますが、順位は 11 位。主催者が行う性能調整により、GR Supra GT の出力は絞られており、結果に表れた格好です。

決勝日(日曜日)の天候は晴。450km の決勝レースでは、給油が 2 回義務付けられており、チームはスタート直後の 2 周目にピットインを行う攻めの作戦を立案。朝のミーティングでスタッフに伝えられ、モチベーションは最高潮に。しかし、スタート直前のウォームアップ走行中に発生した車体トラブルにより、ピットは修羅場に。かろうじてスタート進行に間に合いましたが、問題個所の完全な修復は不可能で、グリッド上での突貫作業のみでスタート。スタッフが祈るような気持ちで川合選手を送り出します。川合選手は計画通り、2 周目にピットイン。短い給油のみでコースへ復帰し、単独走行を始めます。後続のチームが同じ作戦をとったため、川合選手の順位は 24 位。序盤こそタイヤのグリップを活かして順位を上げていきますが、車体トラブルにより空力バランスが崩れており、タイヤの摩耗とともに症状が悪化。一時は 7 位まで順位を上げますが、後からピットに入ったクルマをおさえることができず、苦しい展開となります。川合選手は 9 位走行中の 47 周目にピットイン。吉田選手に交代し、給油とタイヤ交換を行い、ピットアウトします。コースに復帰した吉田選手の順位は 18 位。吉田選手は少しでも順位を上げようとプッシュしますが、問題を抱えた状態での追い上げは厳しく、ミラーを見ながらの走行が続きます。それでも上位のリタイアやトラブルにより、吉田選手は徐々にポジションアップ。78 周目には入賞まであと 2 つの 12 位まで上がります。しかし、終盤に追い上げてきた 2 台に抜かれ、14 位でフィニッシュ。得意な富士で入賞することができず、悔しい結果となりました。次戦は 8 月 27 日～28 日、鈴鹿サーキットで行われます。



決勝結果 (GT300)

#52 埼玉トヨペット Green Brave GR Supra GT
(吉田広樹/川合孝汰)

決勝：14 位 (90 周、2 時間 35 分 48 秒 961)
予選：11 位 (1 分 36 秒 814)



DRIVERS VOICE

吉田広樹 選手



(予選後) 2 か月半ぶりの SUPER GT です。練習時から悪くない順位でいらしたので、結果を考えると残念という気はするのですが、タイヤが大きく外れているわけではありません。今日の涼しさでもいいですし、もっと暑くなってもカバーできる準備はできています。予選 1 位の 65 号車のタイムには、ぼくらのクルマがどう決まっても届かないと思いますが、レースは別かなと思いますので、焦らず強いレースができればと思います。

(決勝後) とりあえず走り切ったというレースになってしまいました。ウォームアップの時、クルマのダウンフォースに影響が出るのが壊れてしまって。応急処置で直せるレベルではなく、グリッドでできる限りのことをメカニックがやってくれて、それで走っていました。ただ、症状は改善していなくて、速く走るのには厳しい状態でした。順位を少しでも前へ、または下げないよう、それだけを考えながら走っていました。これがレースの難しさというか、大変な部分と感じました。

川合孝汰 選手



(予選後) Q2 をまかせてもらったのですが、ベストのアタック中に脱輪があり、翌周からアタックに入りました。タイヤのグリップが良かったのは前の周で、セクター3 で性能はおちていました。ちょっと力が入り過ぎてしまったのと、今まで以上に緊張してしまったので、もったいなかったです。メルセデス AMG の直線が速く、ぼくらには厳しいです。もうちょっと温度が上がるとタイヤのいいところを使えると思うので、明日は気温が上がってくれた方がありがたいですね。

(決勝後) ウォームアップ中に発生した車体トラブルにより、パイブレーションが発生。空力がずれたことで、タイヤへの攻撃性も高まり、まったく曲がらないクルマになってしまいました。単独走行はなんとかあったのですが、集団の中に入った時のペースは厳しかったです。チームの判断で違うコンパウンドのタイヤを選択し、そのあとは吉田さんが耐えてくれました。2 回目のピットインの際、優勝したクルマの前に出ていたの、とっても悔しいレースになってしまいました。

GT300 決勝結果

順位	車名 (車両)	周回数
1 位	SUBARU BRZ R&D SPORT (スバル BRZ GT300)	91 周
2 位	GAINER TANAX GT-R (日産 GT-R NISMO GT3)	91 周
3 位	UP GARAGE NSX GT3 (ホンダ NSX GT3)	91 周
4 位	Syntium LM corsa GR Supra GT (トヨタ GR Supra GT)	90 周
5 位	K-tunes RC F GT3 (レクサス RC F GT3)	90 周
6 位	リアライズ日産メカニックチャレンジ GT-R (日産 GT-R NISMO GT3)	90 周
14 位	埼玉トヨペット GB GR Supra GT (トヨタ GR Supra GT)	90 周

天候：晴 路面：ドライ ※トップ6まで (出走 25 台)

チームランキング GT300

順位	ゼッケン	チーム名	ポイント
1 位	56	KONDO RACING	48.5
2 位	61	R&D SPORT	38
3 位	18	TEAM UPGARAGE	33.5
4 位	11	GAINER	27.5
5 位	7	BMW Team Studie×CSL	25
6 位	10	GAINER	23.5
13 位	52	埼玉トヨペット Green Brave	17.5

※トップ6まで



PARTNERS



アルパインマーケティング株式会社



株式会社エヌ・ティ・コーポレーション



埼玉スリーボンド株式会社



株式会社西武ライオンズ



大和ラチエーター工業株式会社



株式会社 TAN-EI-SYA WHEEL SUPPLY



株式会社ドーム



株式会社日本ビューテック



Mechanix Wear LLC

第 5 戦は 8 月 27 日～28 日 鈴鹿サーキット (三重県)